

就職 ～何を学んだら、どういったところに就職できるの？～

5つの研究分野を生かして食品や医療、化学業界へ

(バイオサイエンス学科)



清水：バイオサイエンス学科では有機化学、分子生物学、食品科学、微生物学、植物バイオテクノロジーの基礎から実践的な実験技術までを総合的に学びます。バイオサイエンス分野の幅広い学びを通して、生命や生物の仕組みの解明、健康・医療への貢献、食料問題や環境問題の解決に挑戦する人材の育成を目指します。

本学科で学んだ学生たちは、バイオサイエンス分野の知識や実験技術を応用することができる食品製造・健康食品会社、化粧品会社、製薬・化学会社、種苗・農業関連会社、発酵醸造会社、環境関連会社などさまざまな業界で活躍しています。また本学大学院をはじめ国公立大学院への進学を目指す学生たちへは早い段階から科学英語、専門科目、研究の個別指導などのサポートを行っています。

バイオサイエンス学科では必要な科目を履修すれば高校理科と中学理科の教員免許が取得できます。また食品衛生コースの所定の科目を修得することで、国家資格である食品衛生管理者、食品衛生監視員の資格も取得可能です。必要な科目が無理なく取得できるような履修カリキュラムになっているので安心してください。そのほか、博物館学芸員、健康食品管理士、バイオ技術者、危険物取扱者なども本学科の学生たちが目標とする資格です。

環境に配慮できる人材

(バイオ環境デザイン学科)



原：バイオ環境デザイン学科は、自然や生き物が大好きで好奇心旺盛な学生、エコロジーに関心のある学生、地球環境の危機が叫ばれる中で環境問題に取り組みたい学生、あるいは、以上の基本的な素養を踏まえて、バイオ環境という生き物の共生空間のデザインに取り組みたい学生などを求めています。在学中に、環境に関する多くのことを学び環境に配慮できる人材を世に送りだすカリキュラムを持っています。理系に属している学生諸君には、これまでの理系ではなく、エコロジカルな理系を目指してほしいと考えています。また、すでに感受性豊かな自然へのまなざしを身につけている文系の学生諸君は、その感性

を環境問題の解決に生かしてほしいと考えています。理系や文系の既成の壁にとらわれることなく、学んでほしいと思います。私たちと一緒にこれからの環境を再生・創造していく環境配慮型人材として、在学中にしっかりと自分自身を磨き、卒業後は実社会の中で存分に活躍してください。また、バイオ環境デザイン学科では、社会での活躍を支

援するために、環境再生医初級、自然再生士補、樹木医補、地域調査士の4つの認定資格を卒業時に取得できる制度を持っています。

自然のしくみを学び、多様な地域・環境を創る

—人と自然との関わり方の作法の習得を通じて—

地域調査士

公益社団法人 日本地理学会



地域を総合的（自然、社会、人文など）に調査する知識と技能を身に付ける

環境再生医初級

認定NPO法人 自然環境復元協会



街や地域の環境を診断し、必要な処方箋を書いて実行できる、街のお医者さんを目指す

樹木医補

一般社団法人 日本緑化センター



公園や庭、古木などの樹木の診断と回復の技能を持ち、それを仕事として実施する

自然再生士補

一般社団法人 日本緑化センター



植物を中心とした自然再生に関して、推進のための計画や技能を身に付ける

農を知って、食品業界へ・食品を知って、農業系へ

(食農学科)



藤井：食農学科の特徴は、一つの学科で農業のことと食品のことを学ぶということです。多くの農学系の学部は、食品系と農学系が別々の学科になっていて、その関わりやつながりを学ぶことは少ないのです。生産者の持っている問題点を解決するような食品の開発、あるいは作りたい食品から必要な特性を持った農作物を創り出す品種改良や農業生産を行うには、両方の分野のことを知っている人が必要です。特に、食品業界を希望している人には、その原料を生み出している農業というものの問題や必要性を学んで

欲しいと思っています。食農学科の6割の人が、職種は生産、製造、流通、小売りなど様々ですが、業種としては食品あるいは農業関連の仕事についています。また、高校の農業教員として次世代の人材育成に携わっている人もいます。農業系の高校は数が少ない、と思っているかもしれませんが、実は先生は不足しています。毎年、教職の部屋には高校から講師の問い合わせがあります。採用試験は募集人員が少なく一発合格は難しいので、講師から始めるのが一般的です。食品や農業系の研究職に関心ある人には、大学院の入試に必要な英語の特訓なども行っています。

どの学科を選択したらいいの？

いわゆる実験室での研究開発などに興味がある人は<バイオサイエンス学科>が、環境調査・環境コンサルティングなどに興味ある人は<バイオ環境デザイン学科>、食品や農業系の職業についてみたい人は<食農学科>がお勧めです。とはいえ、医師や看護師、弁護士などの国家資格が必要な職業の場合は、絶対これを勉強しておかないと、という専門がありますが、それ以外の業種の場合は学科を強く意識する必要はありません。

大学で学ぶのは、専門性もあるのですが、それ以上に、物事の見方、調べ方、モノの見方、データの集め方、データの解析の仕方、など何にでも応用でき、どの分野に就職しても必要になる、科学的手法の習得や科学的ものの考

え方見方があります。理系の人が文系の部門に就職することも多くありますが、これも論理力や科学的思考力が評価されるからです。将来の職業を考えて学科をえらぶことも大切です。でもまだ将来の職業がイメージしにくい人は、実験が好きなのか、フィールドワークが好きなのか、生物が好きか、化学が好きか、など自分の興味や関心があるものを通して、思考力を身につけるということも重要です。そうすることが就職にも役立つと思います。